

(内分泌・糖尿病内科)

本年度は大学から石塚啓哉先生（2021年卒）佐藤駿匡先生（2018年卒）に出張に来て頂き 片桐 尚と3人で診療にあたりました。新患は火曜日は佐藤、木曜日は石塚/片桐が担当し、大学から週一回金曜日の午前中に石澤正博先生、月曜日に深井悠未先生に来て頂きました。

総再来数は2042(深井 208 石澤153 石塚 338 佐藤 483 片桐 860 2024 3月末)と 昨年より 44 人の増加となりました。

柏崎市内に糖尿病専門の開業医の先生のない中 当地域の糖尿病医療の中心としての役割を継続して担っています。

外来診療は 2019 年 10 月にリニューアルされた糖尿病センターのもと引き続き 糖尿病外来と栄養指導外来、治療難渋例に対する診察前問診、看護外来を組み合わせ糖尿病患者の療養指導にあたりました。(糖尿病センター参照)

病棟においては、高血糖や合併症をもった糖尿病など緊急性の高い症例を西5F病棟にとり、予定教育入院は東5F病棟で運動療法もやりながらという体制を組み、両病棟で情報交換をしながら急性期を過ぎたケースを西5F から東5F に移しながら教育を継続しました。

佐藤先生はコロナ禍もあり沈滞化していた教育プログラムを見直し 糖尿病治療の根幹である教育システムのパスを作成し 現在動き出しています。

また1型糖尿病治療に対するミニメドを使ったSAP療法の導入、数多く来るようになった学生や研修医の指導等にもあたって頂き当病院や地域の糖尿病医療のレベルアップに貢献して頂きました。

石塚先生は専門1年目として柔軟に 積極的に研修に取り組み 実力をつけてきています。今後新潟県の糖尿病医療の中核を担う人材として期待されます。

甲状腺、内分泌疾患においては バセドウ病の難治例に対して積極的にアイソトープ治療を施行致しました。

原発性アルドステロン症の診断はアルドステロンが新しい測定系となり、 施行錯誤をしながら取り組んでいる状態です。

引き続き地道に糖尿病患者さんの健康維持、合併症予防に力を注ぎ 地域医療に貢献できればと考えています。

以下に臨床統計を示します。

(糖尿病関連) 6月の統計

外来患者のHbA1c	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
5.8%以下	371	312	256	307	337	280
5.9-6.9	668	540	525	498	534	552
7.0-7.9	385	347	357	355	316	316
8.0-8.9	196	216	189	190	197	204
9.0-9.9	85	87	75	80	75	80
10.0-10.9	37	33	34	22	32	34
11.0-11.9	19	12	10	13	6	15
12.0以上	12	7	8	6	6	12
合計(人)	1773	1554	1454	1471	1503	1493
HbA1cの平均	6.99	7.04	7.06	6.97	6.94	7.06

(甲状腺関連)

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
甲状腺エコー	482	560	474	500	502	543
甲状腺細胞診	29	54	55	44	56	37
バセドウ病アイソトープ治療	2	3	1	5	5	2

(内分泌関連)

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
ACTH負荷副腎静脈sampling	0	1	1	2	2	0